

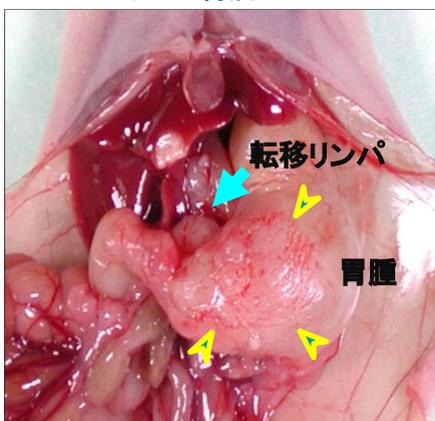
	シリーズ名	スキルス胃癌の増殖・転移シグナルを標的とした分子標的治療薬のアッセイ技術
	所属・役職・氏名	癌分子病態制御学・准教授・八代 正和 (YASHIRO, Masakazu)

### <要旨>

胃癌は本邦悪性新生物の死亡率2位で、罹患率や悪性度が高い。なかでも、胃癌の約10%を占めるスキルス胃癌は急速広範に増殖浸潤し、腹膜転移やリンパ節転移が多く、極めて予後不良である。このようにスキルス胃癌は難治性であり、有効な治療薬の開発は進んでいない。スキルス胃癌は分子生物学的に特徴的な病態を呈することから、その特徴に基づいた創薬が期待される。我々は、スキルス胃癌治療薬の効果を評価するためのアッセイ系を開発した。この胃癌モデルを用いて創薬の共同研究を行いたい。

### <研究シリーズ説明>

#### スキルス胃癌モデル



#### 胃癌腹膜転移モデル



ヒトスキルス胃癌の病態に極めて類似したマウス胃癌モデルを開発した。このモデルを用いて、薬物効果の検討が可能である。このモデルを用いた研究が多くの論文に報告されている。(Key word: OCUM-2MD3, OCUM-2MLN, OCUM-2M)

### <アピールポイント>

1. 国内外において、スキルス胃癌細胞株や、スキルス胃癌治療評価モデルは極めて少ない。
2. 我々の胃癌モデルは胃腫瘍およびリンパ節・腹膜転移の両方の検討が可能で、他に類を見ない貴重なモデルである。
3. 細胞株を用いて in vivo のみならず、in vitro の効果検討も可能

### <利用・用途・応用分野>

1. スキルス胃癌モデル作成のノウハウ (胃腫瘍、腹膜転移、リンパ節転移、皮下腫瘍)
2. スキルス胃癌を用いた阻害剤の効果評価 (in vivo, in vitro)

### <関連する知的財産権・引用文献・学会発表など>

(知的財産権)

W02007/088651 TGF $\beta$ シグナル阻害剤と抗腫瘍剤の組み合わせ使用

(文献)

1. Yashiro M, et al. A c-Met inhibitor increases the chemosensitivity of cancer stem cells to the irinotecan in gastric carcinoma. Br J Cancer. (2013), 109, (2619-28).
2. Yashiro M, et al. An EGFR inhibitor enhances the efficacy of SN38, an active metabolite of irinotecan, in SN38-refractory gastric carcinoma cells. Br J Cancer, 105(10):1522-1532, 2011.
3. Nakamura K, Yashiro M, et al: A novel molecular targeting compound as K-samII/FGF-R2

phosphorylation inhibitor, Ki23057, for Scirrhou gastric cancer. *Gastroenterology*, 131(5):1530-1541, 2006.

<関連するURL>

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/surgical-oncology/cancer/index.html>

<他分野に求めるニーズ>

分子標的化合物の合成技術

キーワード

胃癌、スキルス胃癌マウスモデル、分子標的治療、前臨床試験